

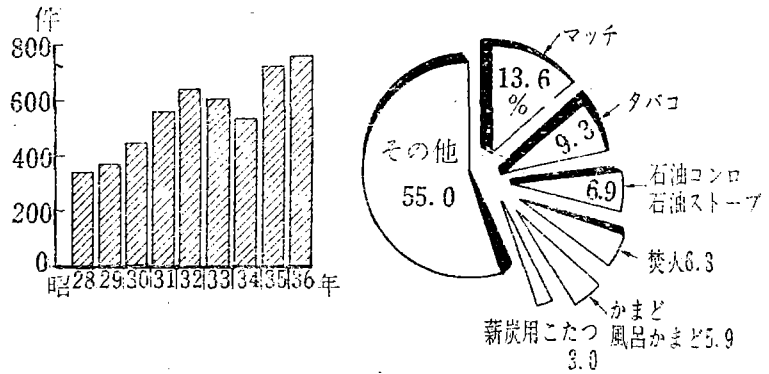
110. 火 災

人口の増加に従って住宅、工場等も必然的に増加し、年々火災も多く発生し昭和36年は戦後最高の発生件数をみ、損害見積額も8億余円に及んだ。原因別ではマッチ、

たばこ、石油コンロ、ストーブ等が多くこれらの使用には十二分の注意が必要である。

また月別では寒候期に多く夏期に少なくなっている。

火災発生件数とその原因(昭和36年)



年	出 火 件 数 と 損 害						
	出火件数	焼 失 棟 数		罹 災 世 帯 数	罹 災 者 数	損 害 見 積 額	
		総 数	(内)全焼				
昭和 28 年	341	556	...	491	...	288 739	
29	374	461	290	276	1 119	191 059	
30	449	352	215	272	1 050	404 727	
31	563	546	343	221	947	167 127	
32	640	708	469	303	1 240	308 129	
33	611	706	439	296	1 088	305 697	
34	539	545	332	271	999	213 282	
35	720	707	416	486	2 162	318 495	
36	767	743	434	408	2 847	803 925	
昭 和 36 年 月 別 発 生 件 数							
総 数	出火件数	(内) 主 な 直 接 原 因 別					
		かまど 風呂かまど	石油コンロ ストーブ	たばこ	マッチ	焚火	薪炭用 こたつ
総 数	767	45	53	71	104	48	23
1	107	6	8	12	9	4	8
2	134	5	9	11	32	10	4
3	78	2	4	11	12	10	7
4	69	6	4	7	9	4	—
5	47	1	4	5	5	2	—
6	44	4	—	2	6	3	—
7	29	—	1	3	1	2	—
8	45	7	6	3	3	2	—
9	54	4	7	7	8	6	—
10	28	2	2	1	—	1	—
11	42	2	2	2	3	2	—
12	90	6	6	7	16	2	4